

涙道内視鏡の導入・治療開始について

とかち白樺眼科に通院してくださっている患者さん、関係者の皆さん、いつもお世話になっております。今回は、当院で導入を始める涙道内視鏡について、ご説明させていただきます。

涙は、目のそばにある涙腺で血液をろ過して作られています。そのあと、角膜と結膜を潤して、一部は蒸発し、一部は涙道を通して鼻へ流れていきます。いわば涙の下水道です。

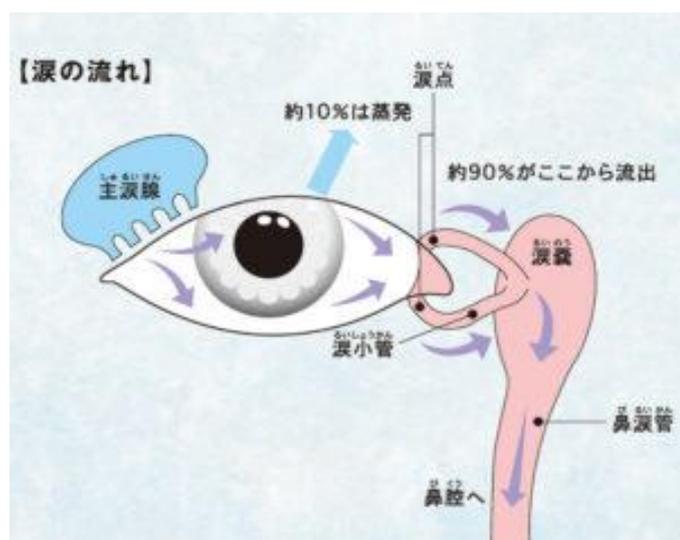


図1 涙の流れ(涙道)

涙道の入り口は涙点といい、その後上下の涙小管→涙のう→鼻涙管を經由して鼻の奥(下鼻道)へと流れます。「涙道閉塞」とは涙道が詰まっている状態です。涙道が詰まると涙目(流涙症)になります。また詰まる場所によっては目やにが出ます。涙道閉塞は中高年の女性に好発し、多くが原因不明です。その一方で、はやり目(流行性角結

膜炎)、鼻の病気、ある種の抗がん剤・点眼液の副作用などが原因で涙道閉塞が起こることがあります。

治療は涙管チューブ挿入術が一般的です。涙管チューブ挿入術は、涙道の閉塞部位にシリコンチューブを挿入、留置して開通します。40～90%の確率で治癒すると言われています。閉塞部位によって治療の難易度と改善度が異なります。しばらくすると再閉塞する場合があります。手術後は通院して約1週間毎にチューブに通水する必要があります。留置したチューブは1～3カ月で抜去します。

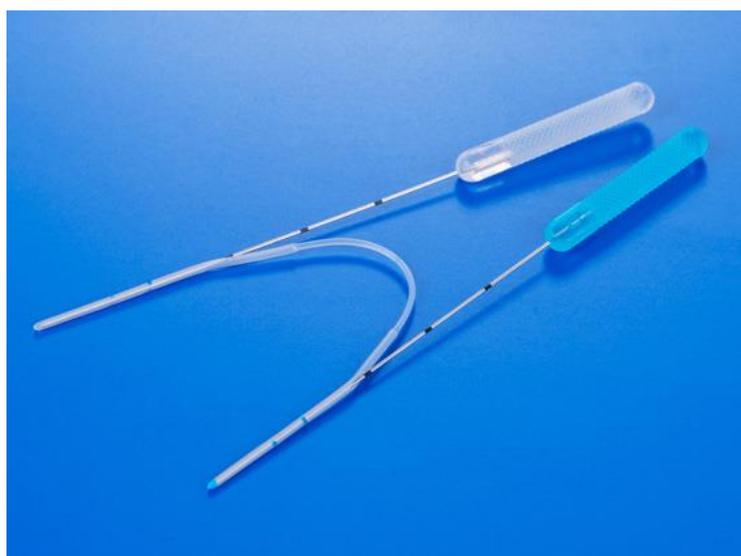


図2 涙管チューブ挿入術で使用するラクリファスト

必要性のある方々には、梅田院長よりご説明させていただきます。気になる方がいらっしゃいましたら、ご質問、お問い合わせください。

令和8年3月2日

とかち白樺眼科 院長 梅田 和志